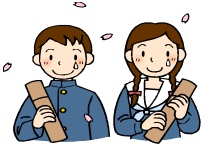


# チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

## 子どもの心に火をと灯す



中学生や高校生への支援で最も大切なことは、自らやろう、やりたいと思う気持ちをもたせることです。本人が「変わりたい!」と思う気持ちをもてなければ、個別の指導計画を作成し、目標や支援内容を考えても子どもの変容は難しいと思います。子どもの心に火を灯すために、本人に検査結果を伝え、自己理解を促したケースを紹介します。

〈中学1年 男子生徒〉

### 1 学校での様子

- ・過去にLD傾向を指摘されている。読み書きの困難だけでなく、教科によっては問題が分からないために白紙で出すこともあるほど、学習面の遅れが気になる。あなたの得意な学習スタイルを見付けるために教育相談という形で検査を実施した。

### 2 検査の様子と結果

- ・「私は勉強ができない」等、自分を卑下する発言が多かった。検査していることを友達に気付かれはしないかと心配していた。
- ・知的発達が疑われる数値であった。社会的ルールが身に付いている、有意義な視覚刺激を理解することが得意な反面、計算問題や一般常識、処理速度、空間認知等が苦手という特性が見られた。

### 3 本人への報告

#### (1) 配慮したこと

- ・検査結果を伝える必要性について、保護者、学校と確認した。
- ・本人用の報告書を、保護者と学校(教頭、学年主任、担任)に検討してもらった。
- ・検査器具を提示しながら得意なことから伝え、緊張をほぐしながら進めた。
- ・苦手なことは、いくつか対処法を提案したり、具体物を紹介したりして、明日から実践できる具体的な支援内容を伝えた。

#### (2) 本人の変化

- ・報告をしたその日の夜、私がプレゼントした行間が広く、ドット入りのノートを使い、中学に入学して初めて家庭学習に取り組んだという。学校では「魔法のノート」と呼んでおり、本人のやる気を評価して、自信をもたせたいと話していた。同時に、継続できるような仕掛けを考えている。

#### (3) 子どもの心に火を灯すポイント

- ・進路と結び付けながら、「本人が選ぶ、目的をもてる、苦手さをカバーできる」ことが大切である。本人が変わりたいと思ったときがチャンス!
- ・「個別の指導計画」作成に、保護者だけでなく本人が積極的に参画する。

- |                                      |                    |
|--------------------------------------|--------------------|
| ・ The mediocre teacher tells.        | (平凡な教師は指示をする)      |
| ・ The good teacher explains.         | (よい教師は説明する)        |
| ・ The superior teacher demonstrates. | (優秀な教師はやってみせる)     |
| ・ The great teacher inspires.        | (最高の教師は子どもの心に火を灯す) |